

# 新潟大学における歴史的実験機器の物品監守簿から

新潟大学教育研究院

原田修治

On an Account Book of the Historical Experimental Items

at Niigata University

Niigata Univ., Academic Assembly, Institute of Sci. & Tech.

S. Harada

## はじめに

新潟大学の学部は9学部（人文，教育，法，経済，理，医，歯，工，農）で構成されている。昭和24年の新制大学発足の母体となった旧制学校は，新潟第一師範学校，新潟青年師範学校，新潟第二師範学校，新潟高等学校，新潟医科大学，長岡工業専門学校，県立農林専門学校である。新潟大学に現存する歴史的な実験機器は，旧制新潟高等学校（大正8年，1919年4月設立）の約138点と長岡工業専門学校の前身である長岡高等工業学校（大正12年，1923年12月設立）の約187点である。なお，旧制新潟高等学校の物理機器を管理していた教養部物理教室は昭和45年（1970年）に新潟市西大畑より五十嵐に移転した。また，工学部共通講座は昭和54年（1979年）に長岡市から五十嵐キャンパスに統合移転された。こうした移転を契機に古い実験機器の多くが整理・廃棄された。なお，教養部ならびに工学部共通講座は，教養部廃止に連動し平成6年（1994年）から新学科などに変わった。共通講座は，長岡高等工業学校の設立時に電気工学科・機械工学科・応用化学科とならび「基礎学の重視」の教育方針のもと理科教室として新設されたが，その歴史を終えた。

現有する歴史的実験機器は4つに区分している。①「旧制新潟高等学校の心理関係の資料 約38点」人文学部行動科学講座管理，②「旧制新潟高等学校の物理関係の資料 約100点」旧教養部物理教室管理，③「旧制長岡高等工業学校の物理関係の資料 約170点」工学部旧共通講座管理，④「同高等工業学校の機械要素部品関係の資料約17点」工学部機械システム工学科管理である。これら現有の資料を整理し，ホームページ<http://museum-eng.eng.niigata-u.ac.jp/>で公開している。

## 新潟大学の歴史的物理実験機器の特徴

旧制新潟高等学校と旧制長岡高等工業学校の資料の特徴は，「旧制の両学校の間で類似・共通する物品が極めて少ない」という点にある。このことは，理学部の前身である旧制新潟高等学校の物理教育の理念と工学部の前身である旧制長岡高等工業学校の教育理念に差異があったためと想定されることから興味を持たれる。

## 旧制長岡高等工業学校時代の物品監守簿（大正 14 年 6 月）について

旧制長岡高等工業学校の物理関係の資料として「物品監守簿（大正 14 年 6 月）」が現存している。この古文書は、科学史や科学史教育の研究を行う上で貴重な資料となることなど、資料価値について、永平幸雄教授（当時日本物理学史資料委員会委員）から来学時に教えて頂いた。このことを契機に、物品監守簿の電子化に取り組み、Excel ファイルとした。この資料には大正 12 年～昭和 15 年(1923-1940)の 18 年間に長岡高等工業学校理科教室が購入した物品について記録されている。購入品は、研究用機器、教育用機器、旋盤など工作機、教官用机や学生実験台などの什器類などにわたり、それらが、力学、熱学、音響学、光学、電磁気学などの 7 項目に分類され、品名、購入日、購入金額、個数、備品番号、購入先などの情報が記載されている。例えば、総データ件数は 1042 点である。図 1 は購入金額の年度別の推移を示したものである。総購入額は 116,920 円であり、消費者物価指数を参考に現在に換算すると、約 1.7 億円強の額に相当する。監守簿には、購入図書や事務消耗品は計上されていない。講演では、電子化したデータを基に、旧制長岡高等工業学校の物理関係の整備状況を探ってみたい。

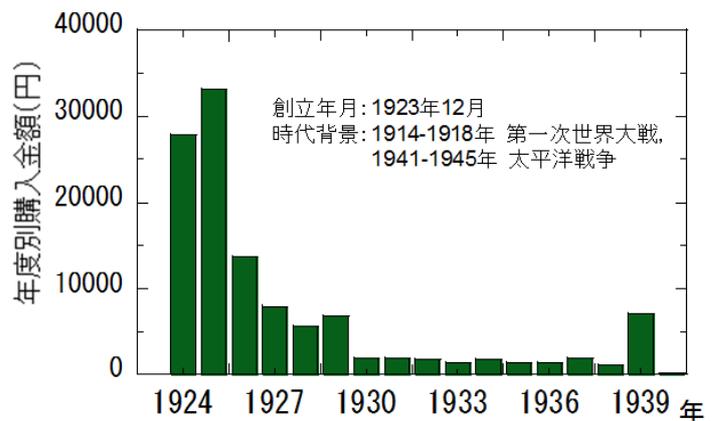


図1: 長岡高等工業学校理科教室の年度別購入金額  
物品監守簿(大正12年～昭和15年)

消費者物価指数換算: 1円(1924年) →1525円(2016年)

## まとめにかえて

ホームページの整備がきっかけとなり、教科書等への掲載を目的とした資料請求や歴史的実験機器を整理・保存し活用する情報交換のネットワークが出来つつある。こうしたことが関係者の活動の大きなエネルギー源となっている。歴史的実験器機は移転や改組のたびに大きく散逸する。しかしながら、当時の職人技が見て取れる「美しく心打たれる」機器は大きな感動をもたらしてくれる。また、シンプルな構造は新しい発想を与えてくれる。歴史的実験機器の保管にはこうした関係者の熱意と関係学部の協力が欠かせない。これらの機器の活かし方が大学の伝統とステータスの証しとなりつつあり、情報交換が益々重要になると思われる。

謝辞：本間興二助教授（旧教養部）は旧制新潟高等学校の物理関係の資料の保存と整理に貢献された。300 点に及ぶ資料の写真撮影は岩崎政行技術職員（旧共通講座）による。また、物品監守簿のデータ化も岩崎氏に負うところが大きい。両氏ともに定年で職場を去っておられるがそれらの尽力に深く敬意を表する。